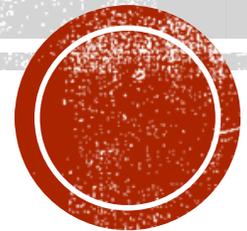


電気磁気学 I 第 13 回

誘電体と静電容量

電子情報システム工学科
奥宏史



今日学ぶこと

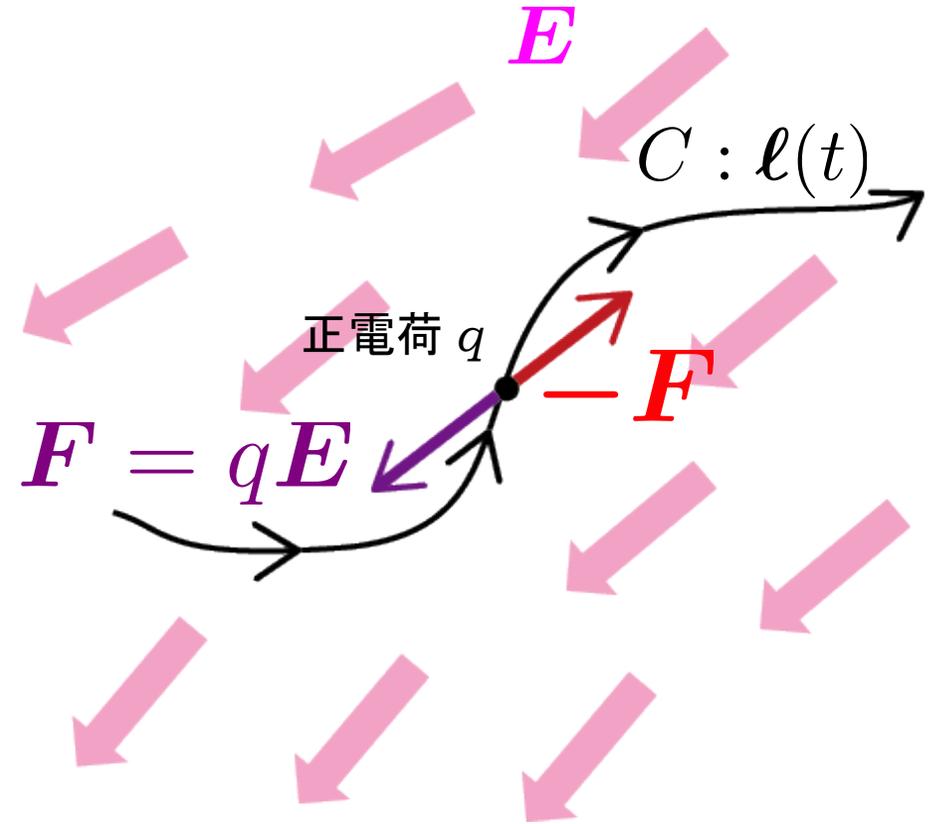
- 誘電率
- 分極
- 平行平板間の電界（復習）
- コンデンサ

電界と電位（復習）

電位差 V : 電界中で電荷を動かすとき,
電界が電荷に対してする
単位電荷あたりの仕事量

$$\mathbf{F} = q\mathbf{E}, \quad V = - \int_C \mathbf{E} \cdot d\boldsymbol{\ell}$$

$$\mathbf{E} = -\text{grad } V$$



電束密度と電界（復習）

電流: 電荷の移動
磁界の発生源

点電荷による電界

$$|D| = \epsilon |E|$$
$$= \frac{Q}{4\pi r^2}$$

$$\text{div} D = \epsilon \text{div} E = \rho$$

電荷密度
[C/m³]

電流に直接関係

$$D = \epsilon E$$

電束密度

[C/m²]

[A·s/m²]

電流

電圧に直接関係

電界

[V/m]

電圧

$$V = - \int E \cdot d\ell$$

(線積分)

単位強さの電界の力線に沿って1m（単位長さ）線積分すると1V（単位電圧）になる。媒質に依らない。

※誘電率 ϵ は媒質に密接に関連する値

誘電率

$$D = \epsilon E$$

ϵ : 媒質の誘電率

ϵ_0 : 真空の誘電率

ϵ_s : 比誘電率（無次元量）

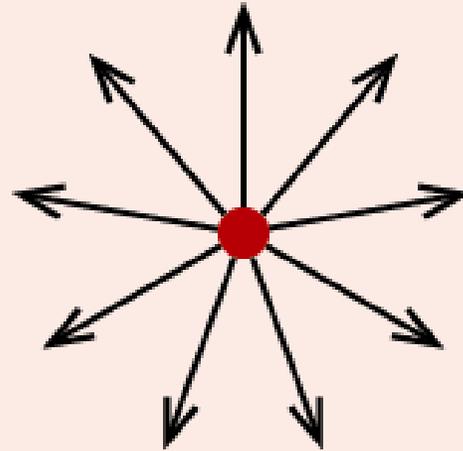
$$\epsilon_s = \frac{\epsilon}{\epsilon_0}$$

$$\epsilon = \epsilon_s \epsilon_0$$

力線

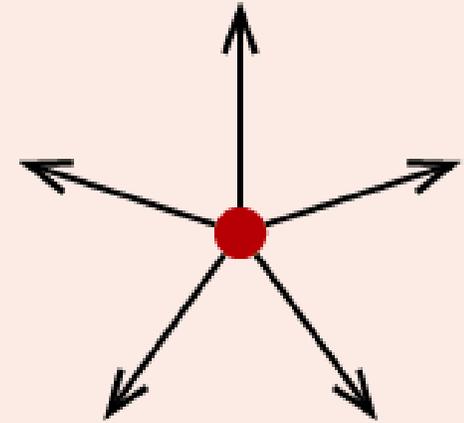
$$V = - \int \mathbf{E} \cdot d\boldsymbol{\ell}$$

単位強さの電界の力線に沿って1m（単位長さ）線積分すると1V（単位電圧）になる。
媒質に依らない。



$$\operatorname{div} \mathbf{E} = \frac{\rho}{\epsilon}$$

単位電荷あたりの電界の力線の本数は媒質によって変わる。



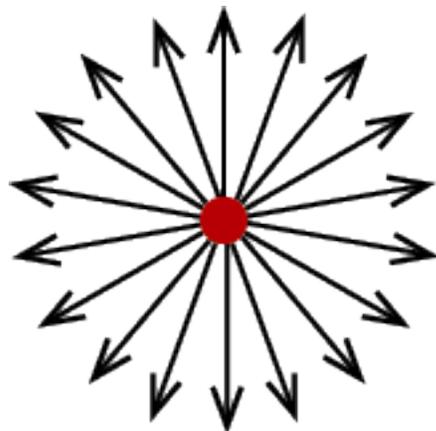
$$\operatorname{div} \mathbf{D} = \rho$$

単位電荷あたりの電束密度の力線の本数は媒質に依らない。

力線 (つづき)

$$\text{div } \mathbf{E} = \frac{\rho}{\epsilon}$$
$$\epsilon = \epsilon_s \epsilon_0$$

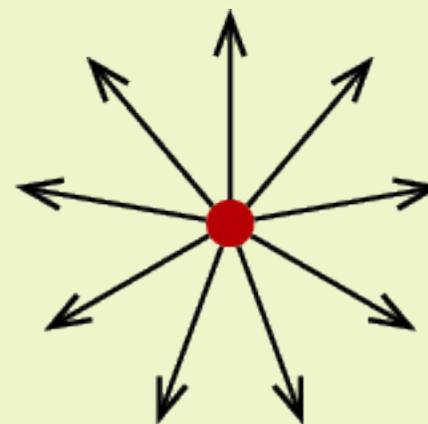
真空中 ϵ_0



$$\text{div } \mathbf{E}_0 = \frac{\rho}{\epsilon_0}$$

等しい
電荷量

媒質の比誘電率 $\epsilon_s = 2$



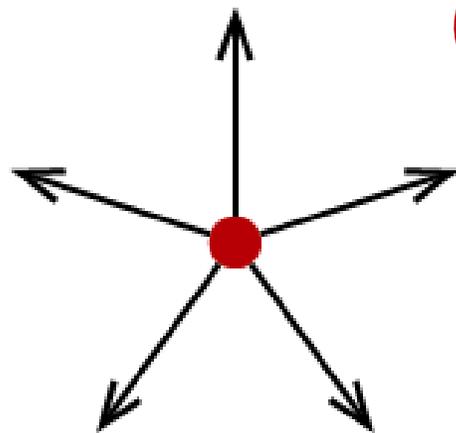
$$\text{div } \mathbf{E} = \frac{\rho}{\epsilon}$$
$$= \frac{\rho}{2\epsilon_0}$$
$$= \frac{1}{2} \text{div } \mathbf{E}_0$$

媒質中で電界の力線の数が1/2になる

力線 (つづき)

$$\text{div} \mathbf{D} = \rho$$

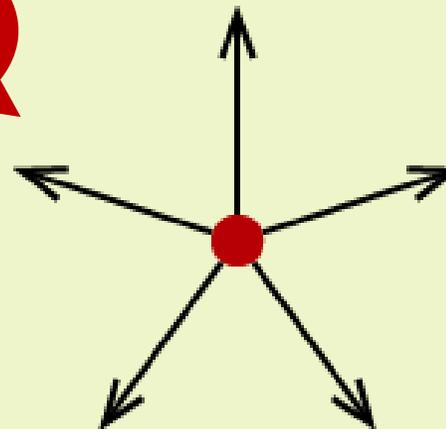
真空中 ϵ_0



$$\text{div} \mathbf{D} = \rho$$

等しい
電荷量

媒質の比誘電率 $\epsilon_s = 2$



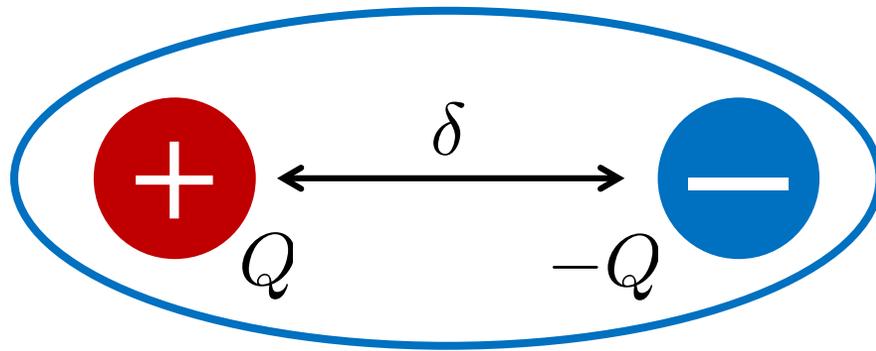
$$\text{div} \mathbf{D} = \rho$$

電束密度の力線の数は媒質に拠らない

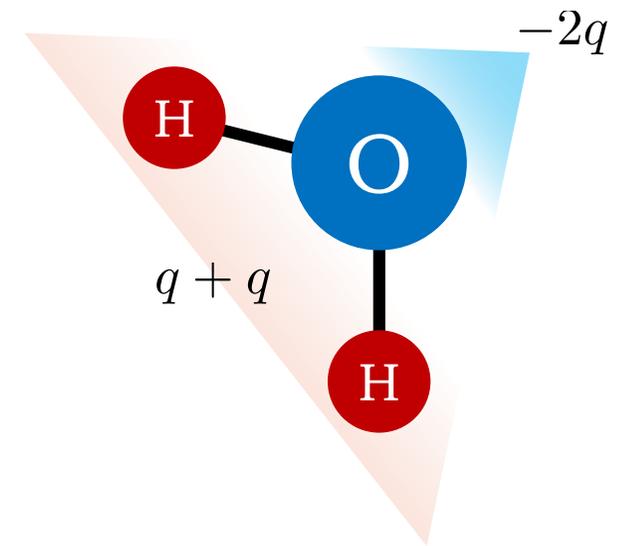
今日学ぶこと

- 誘電率
- 分極
- 平行平板間の電界（復習）
- コンデンサ

双極子



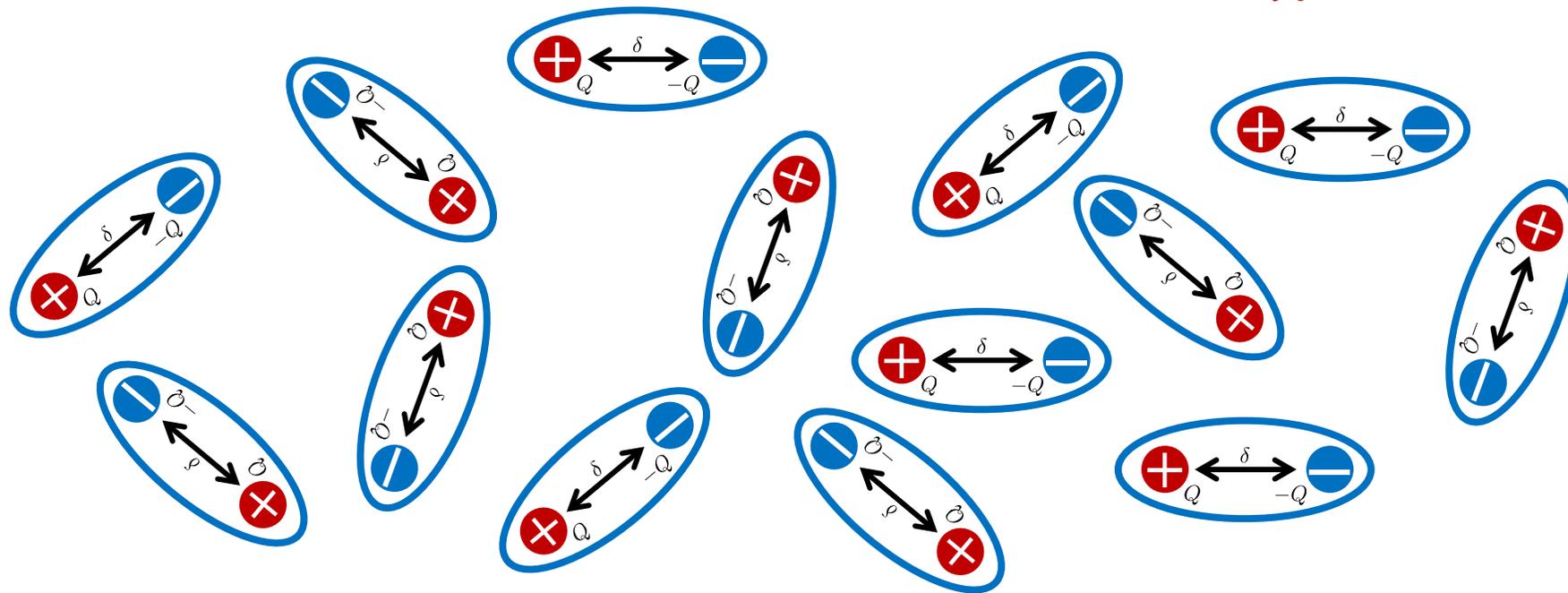
正負一対の電荷



水分子

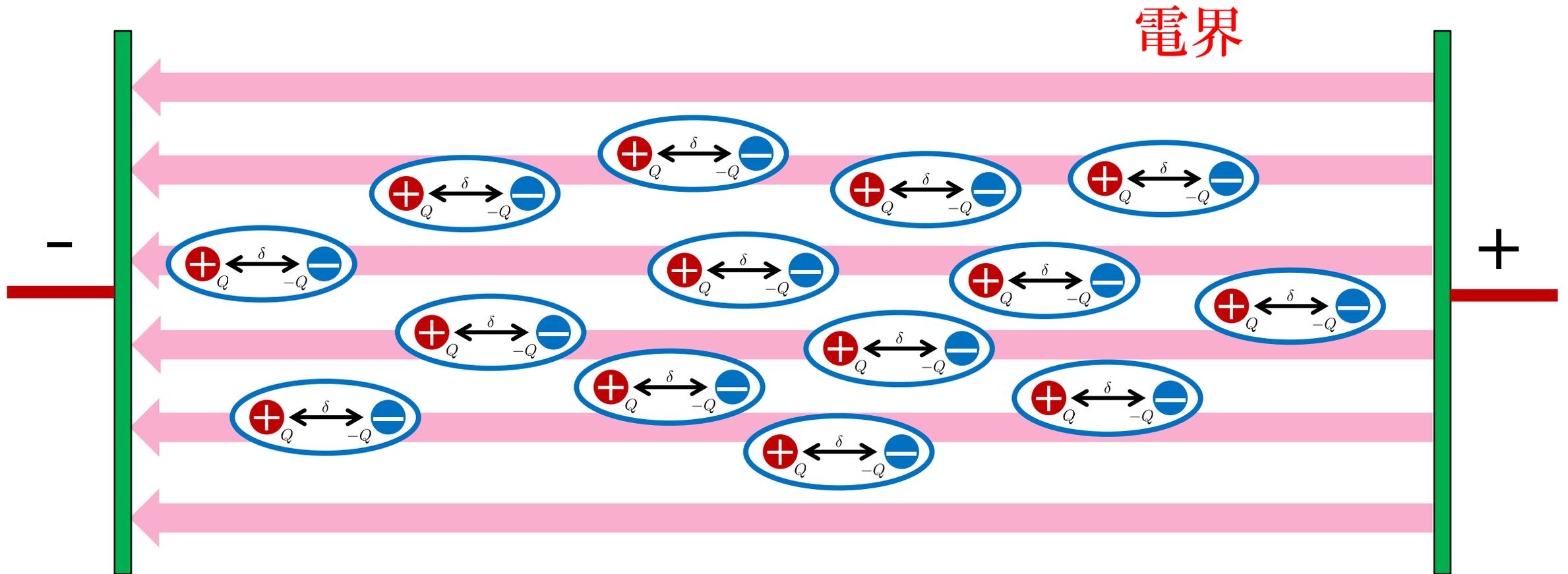
分極モデル

全体としては中性



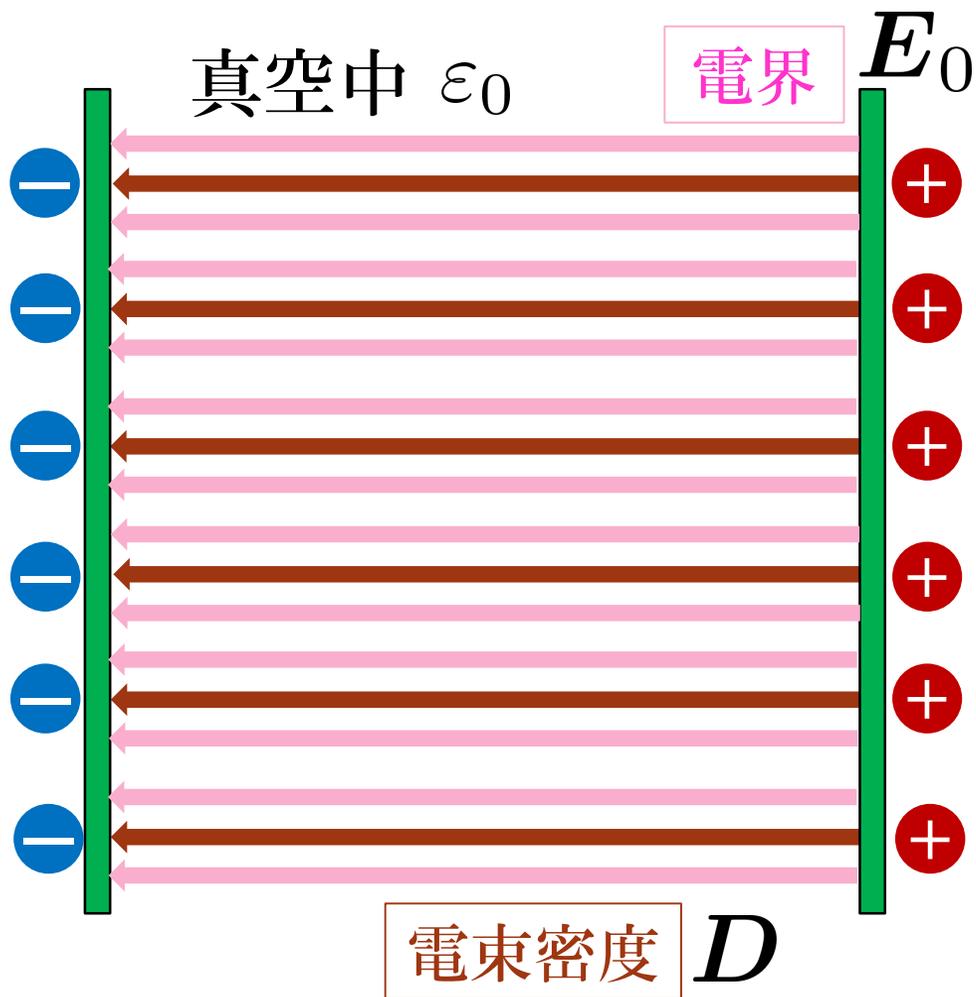
不規則な向きに配置された双極子群

分極モデル (つづき)



外部から電界を与えると向きが一定方向にそろう

分極電荷



等しい
電荷量

誘電体内部の電界は
弱くなる



分極電荷 (つづき)

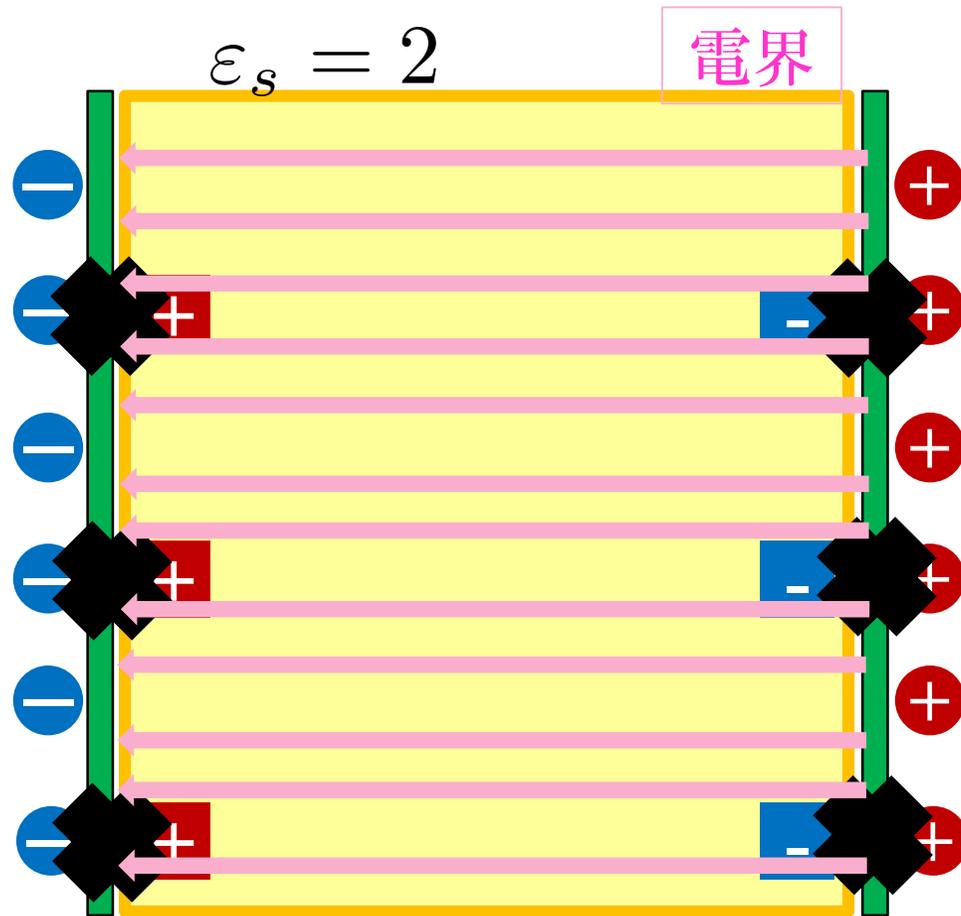


分極電荷：誘電体の両端に現れる
双極子の電荷



分極ベクトル

真空中 E_0



$$D = \epsilon_0 \epsilon_s E = \epsilon_0 E + P_e$$

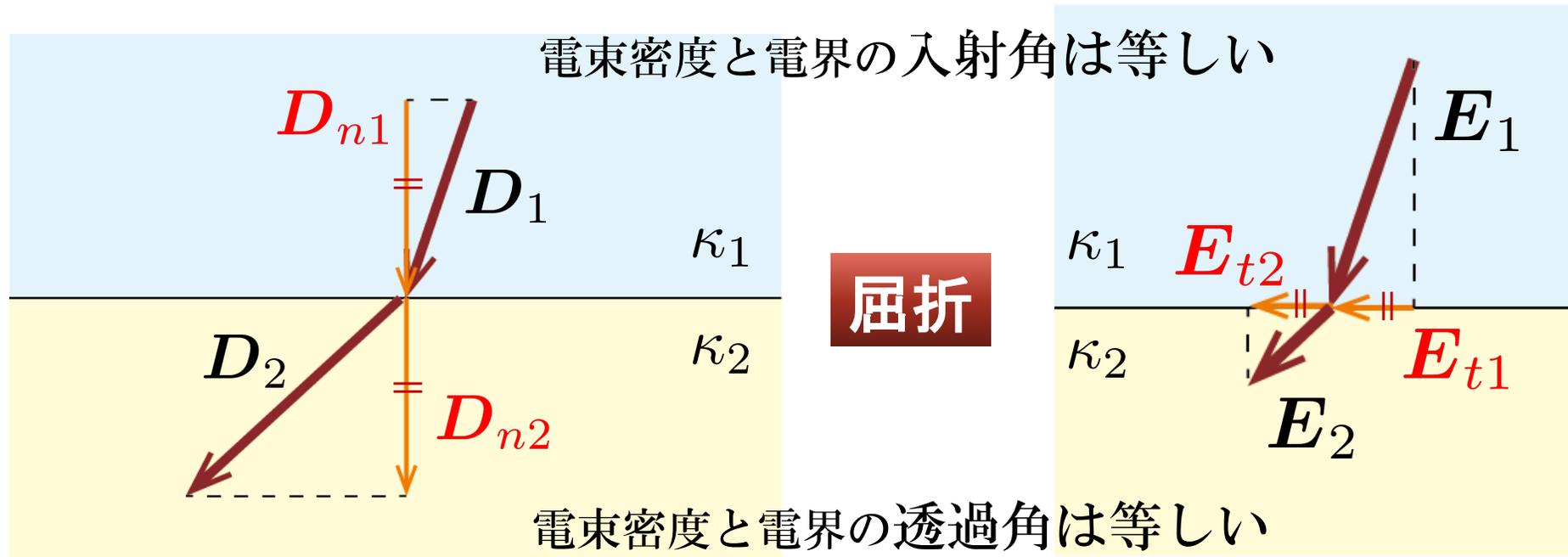
分極ベクトル

$$P_e = (\epsilon_s - 1) \epsilon_0 E$$

ベクトルの向きは分極現象により正電荷が誘電体内を動いた向き

電界，電束密度の境界条件

- 誘電率の値が異なる2種の媒質の境界面



電束密度の法線成分が保存

$$D_{n1} = D_{n2}$$

電界の接線成分が保存

$$E_{t1} = E_{t2}$$

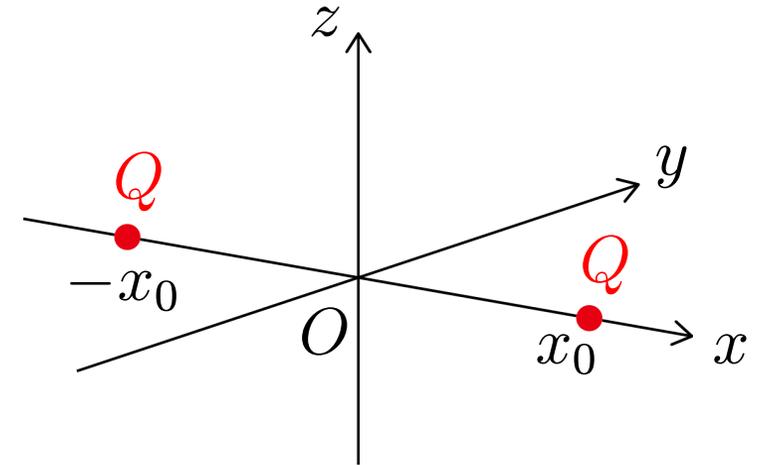
今日学ぶこと

- 誘電率
- 分極
- 平行平板間の電界（復習）
- コンデンサ

等しい2点電荷による電界（復習）

任意の点 $P = [x \ y \ z]^T$ における電界は,

$$\mathbf{E}(P) = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \cdot \frac{(x - x_0)\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}}{((x - x_0)^2 + y^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} + \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \cdot \frac{(x + x_0)\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}}{((x + x_0)^2 + y^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}}$$

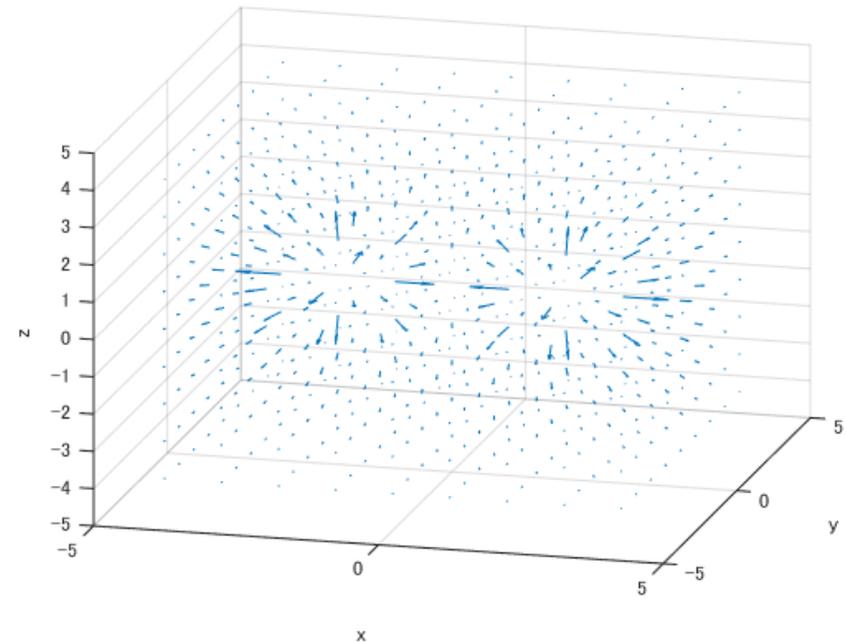


とくに、二つの電荷から等距離の点における電界は,

(yz平面($x = 0$)上の点)

$$\begin{aligned} \mathbf{E}(P|x = 0) &= \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \cdot \frac{-x_0\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}}{(x_0^2 + y^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} + \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \cdot \frac{x_0\mathbf{i} + y\mathbf{j} + z\mathbf{k}}{(x_0^2 + y^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} \\ &= \frac{Q}{2\pi\epsilon_0} \cdot \frac{y\mathbf{j} + z\mathbf{k}}{(x_0^2 + y^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} \end{aligned}$$

x軸方向成分は打ち消し合う。

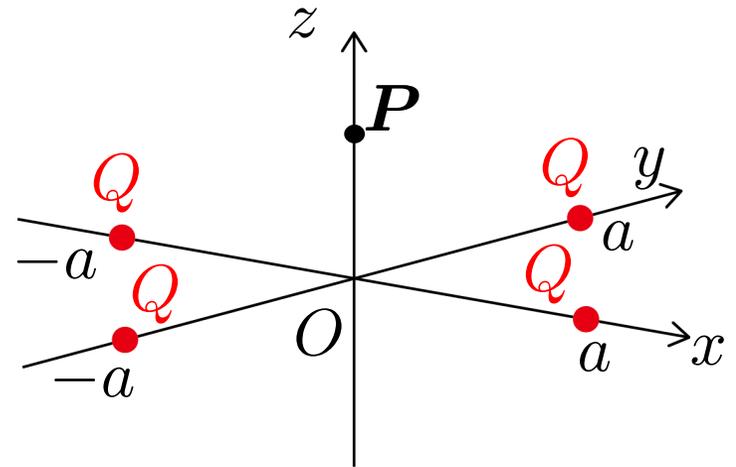


等しい4点電荷による電界（復習）

z軸上の任意の点 $P = \begin{bmatrix} 0 & 0 & z \end{bmatrix}^T$ における電界は,

$$\mathbf{E}(P|x=0, y=0) = \frac{Q}{\pi\epsilon_0} \cdot \frac{z\mathbf{k}}{(a^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}}$$

Z軸方向成分のみ.



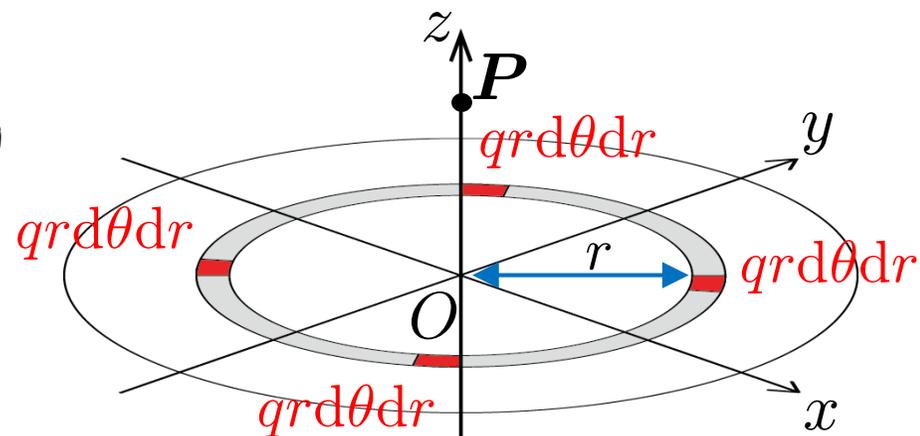
一様に帯電した無限平板による電界（復習）

xy平面上に一様に帯電していると考える。

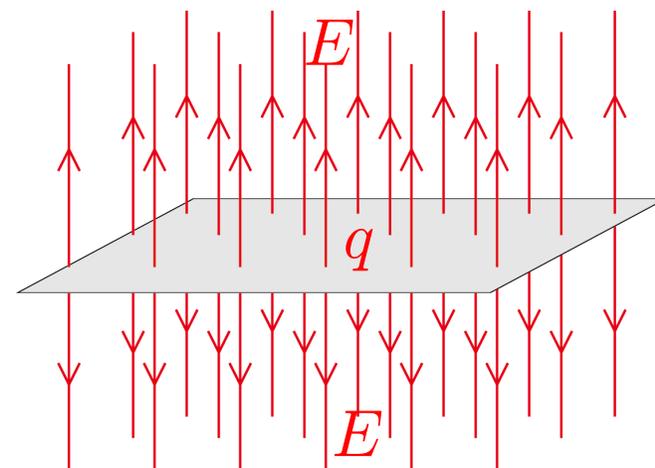
z軸上の任意の点 $P = [0 \ 0 \ z]^T$ における電界は、

$$\begin{aligned}
 \mathbf{E}(z) &= \int_0^\infty \int_0^{2\pi} \frac{q r d\theta dr}{\pi \epsilon_0} \cdot \frac{z \mathbf{k}}{(r^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} = \frac{qz \mathbf{k}}{2\epsilon_0} \int_0^\infty \frac{r dr}{(r^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} \\
 &= \frac{qz \mathbf{k}}{2\epsilon_0} \int_0^\infty \frac{d}{dr} \left(\frac{-1}{(r^2 + z^2)^{\frac{1}{2}}} \right) dr = \frac{qz \mathbf{k}}{2\epsilon_0} \left[\frac{-1}{(r^2 + z^2)^{\frac{1}{2}}} \right]_0^\infty \\
 &= \frac{q \mathbf{k}}{2\epsilon_0} \cdot \frac{z}{|z|} \\
 &= \begin{cases} \frac{q}{2\epsilon_0} \mathbf{k}, & z > 0 \\ -\frac{q}{2\epsilon_0} \mathbf{k}, & z < 0 \end{cases}
 \end{aligned}$$

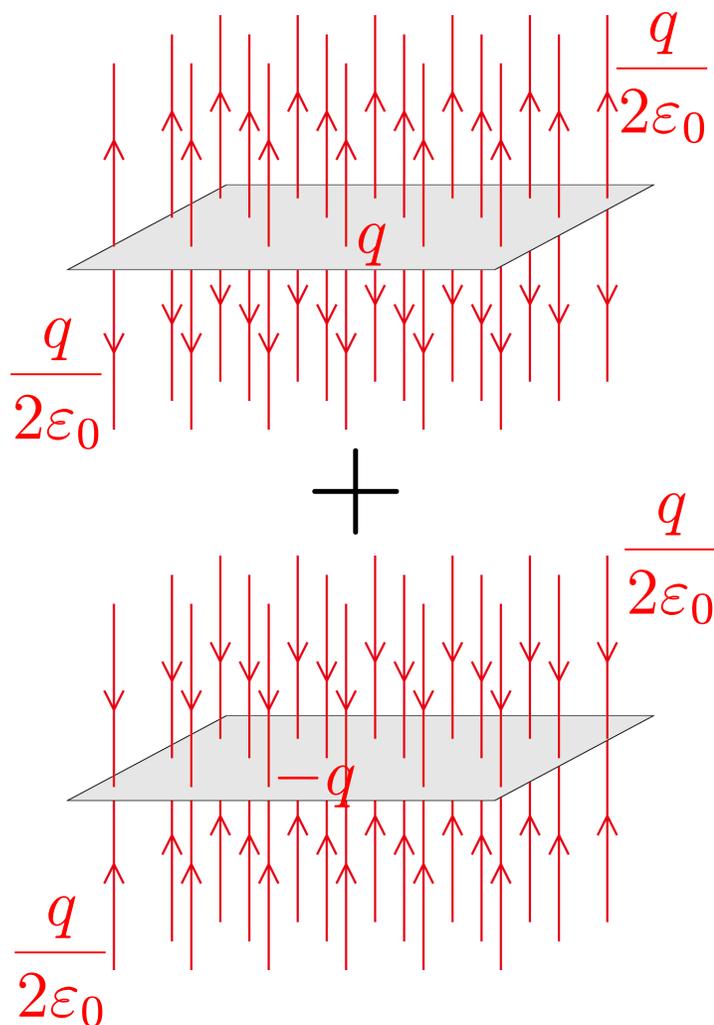
xy平面からの
距離zに無関係



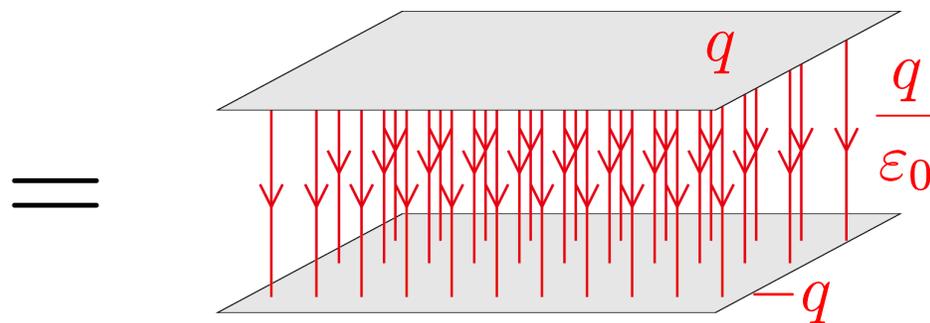
q : 単位面積当たりの電荷量
 θ : +x 軸とのなす角



平行平板間の電界（復習）



電界の向きに注意して



- 平行平板間の電界は一様で大きさが $\frac{q}{\epsilon_0}$
- 外側では 0

今日学ぶこと

- 平行平板間の電界（復習）
- コンデンサ

平行平板コンデンサ

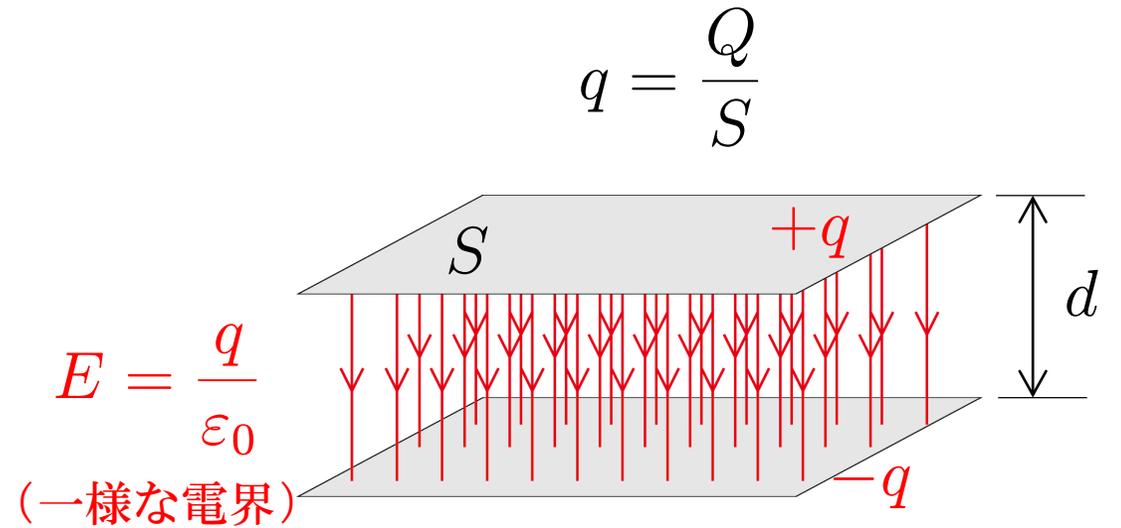
- コンデンサの端効果が無視できるとする.
- 極板の面積を S , 板間距離を d とする.
- 極板に蓄えられた電荷量を $Q = qS$ とする.

平板間の電位差

$$V = Ed$$

$$V = \frac{d}{\epsilon_0 S} Q = \frac{Q}{C}, \quad C = \frac{\epsilon_0 S}{d}$$

静電容量



静電容量の電圧と電流の関係

- (電流) = (単位時間当たりの電荷の移動量)

$$I = \frac{dQ}{dt}$$

- (電荷) = (静電容量) ・ (電位差)

$$Q = CV$$

静電容量の電圧と電流の関係式

$$I = C \frac{dV}{dt}$$

まとめ

- 平行平板間の電界（復習）
- コンデンサ